

平成30年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 日々の教材研究をはじめ、重点研究やメンター研修など、授業を通しての研究・研修を行い指導技術の向上を目指してきたが、さらに子どもが主体となる楽しい授業にするため授業力の向上を図る。
- (2) 朝自習、家庭学習などでスキル学習を推進、基礎基本の定着を図ってきたが、学習への意欲や具体的な取り組みなどで二極化の傾向が見られる。さらに基礎基本の定着を図るために、時間を担保しながら個々にあった支援を行っていく。
- (3) 問題解決学習を通して、思考、判断、表現する力の育成を図ってきた。より身近な地域素材を取り上げ、楽しく分かりやすい授業を展開させることで、意欲を高めながら取り組めるようにしていきたい。
- (4) 地域との連携は良好であり地域社会の活動や結びつきの大切さを実感できるような活動を推進してきた。さらに地域連携を重視し、地域素材とのかかわりを深めながら「地域の一員」として主体的に活動できるようにする。
- (5) 学区内に児童養護施設があり、配慮が必要な子どもが在籍している。施設以外にも家庭環境に配慮や支援が必要な子が多く、家庭の協力が得にくいこともある。

2 今後3年間の方向(中期学校経営方針)

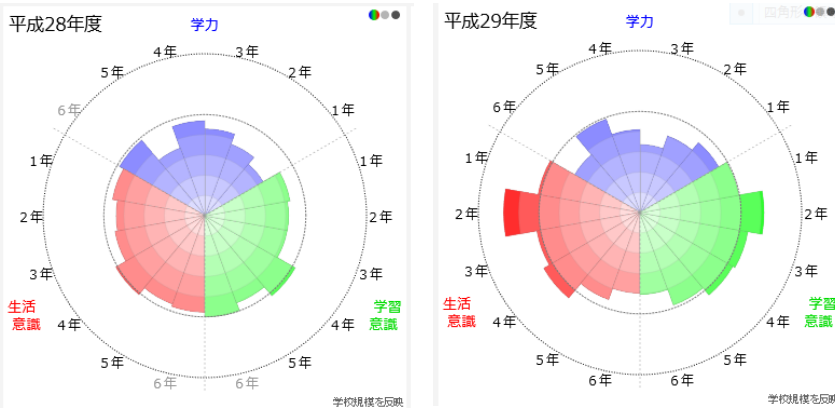
(2) 学力向上に関する指導の目標・方針(平成30年度末の姿)

○子どもにとって身近な地域素材を取り上げ、楽しく分かりやすい学習を実践し、子どもたちの学習意欲が高め、知識の定着を目指す。「学習のめあて&まとめ」の板書のあり方を共通理解して授業に臨む。学習問題の明確化を図り、子どもたちが自ら問題を追究・解決できるような指導を行う。

○幼小小連携推進地区事業を通して、スタートカリキュラムの編成・実践に取り組む。

○特別な支援が必要な子どもについて、個別の教育支援計画・指導計画を作成、すべての教職員がかかわりながら、それぞれの子どもにあった指導が行われています。

3横浜市学力学習状況調査等からの平成29年度の実態把握



生活意識や学習意識は学年のばらつきはあるものの、全体的に市平均の傾向がある。生活指導や特別支援教育に力を入れている成果は表れている。しかし、学力面は横浜市の平均を大きく下回っている。子どもの意欲と学力の定着に相関関係がなく、基礎学力、活用に関する学力の両分野の定着に課題を残す。また、学力層Dに属する児童が相対的に多く、指導に困難を極めている。特定な学年に顕著な傾向が表れている。

(2) 教科学習の状況

- 国語 国語に関する意識は高く、勉強の意義や興味関心ももっている。学習内容も分かっていると考えている児童も多いが、実際の学力の定着と開きがある。
- 算数 算数に関する意識は高く、勉強の意義や興味関心ももっている。全体的に学力層Dに属する児童が多く、基礎・基本の確実な定着が急務である。継続的な支援が必要である。
- 社会 具体的な体験や見学を通すことで、学習意識と学力が向上している。高学年での抽象的な内容についていけない現状がある。
- 理科 実験や観察を重視した授業を行った結果、思考力や技能はついてきた。ただ、知識・理解に結びついていない傾向にある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析

全学年を通し、学力の定着に課題がある。また、学習習慣を含めて基礎が身につけている子とそうでない子の差が見られる。学年による差が顕著で経年変化でもその傾向が見られる。

4 平成30年度 目標と具体的方策

平成30年度 目標

人・もの・ことをつなぎ、自ら考え、互いに深め合う 生活科・社会科学習 ～地域素材の魅力を生かして～

(1) 学校組織としての共通の取り組み

○ わかる授業、楽しい授業の確立

身近な地域素材をもとに楽しく分かりやすい学習の実践を通して、子どもたちが意欲を高めながら主体的に取り組める授業を行う。子ども自らが「成長の自覚」を意識できるように指導を継続的に進めていく。

基礎・基本の定着を図ることで、子どもたちが「分かった」そして「楽しい」となるような学習を進めていくために児童理解と教材開発を積極的に行い、教職員の授業力を高めていく必要がある。特に、発問と板書指導に力を入れ、「学習のめあて」「話し合い・意見交流」「まとめ」が明確になるようにする。

○ 自他の考えを認め合い、お互いを尊重し合う学級・学年経営の構築

だれもが安心して豊かで楽しい学校生活が送れるよう岡津スタンダードやユニバーサルデザイン化の定着を目指し、研修会や情報交換会を開催、全職員が共通理解を図りながら適切な支援にあたる。

○ 教職員チーム力の醸成と向上を目指し、運営組織の確立を推進

組織の見直しを図り、PDCA サイクルを確立した円滑な組織運営の改革を図る。

(2) 学年・教科としての取り組み

○ わかる授業、楽しい授業の確立

全校共通【主体的・対話的で深い学び】

地域素材の開発(資料の具体化)

- ・問題意識を高めるための「導入」の工夫
- ・話し合い活動の重視(子どもの考えのズレを生かす)
- ・体験活動、人の営みから学ぶ授業構成
- ・子どもの言葉を大事にした評価の在り方

個別支援学級

- ・生活に結びついた学習場面を設定する。
- ・個々の発達段階に応じた支援計画の作成と実践を行う。

1・2学年

- ・学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりについて考え、それらのよさやすばらしさを自分との関わりに気づき、地域に愛着をもち、自然を大切にし、集団や社会の一員として安全で適切な行動をする。
- ・身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんですることができ、活動のよさや大切に気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくしようとする。
- ・自分自身を見つめることを通して、自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考え、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活をする。

3・4学年

- 社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して資質や能力を育成する。
- ・調査活動、地図帳や各種の具体的な資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付ける。
- ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

5学年

- 社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して資質や能力を育成する。
- ・地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
- ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の国土に対する愛情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

6学年

- 社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して資質や能力を育成する。
- ・地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
- ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情、我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。